



表紙写真：上から  
 1枚目(写真提供：佐藤浩治/JICA)  
 2枚目「ルワンダの子供たち」・4枚目(写真提供：今村健志朗/JICA)  
 裏表紙写真：上から  
 1枚目(写真提供：JIRCAS)  
 2枚目「アンゴラの親子」(写真提供：長倉洋海/JICA)  
 3枚目「エチオピアの子供たち」(写真提供：久野武志/JICA)  
 5枚目(写真提供：JIRCAS)

外務省  
 〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1 TEL.03-3580-3311 (代)

編集：アフリカ部  
 発行：日本国外務省

2026.03

外務省



日本とアフリカ



# 遠くて近い、アフリカ。

日本から約1万キロメートル以上の遠方に位置するアフリカ。  
距離はとても遠いのですが、私たちは毎日の暮らしの中で、たくさんの“アフリカ”と出会っています。  
同じように、アフリカの中にも、さまざまな“日本”があります。  
世界にアフリカへの支援を呼びかけてきた日本。  
東日本大震災で、温かい支援を届けてくれたアフリカ。  
私たちの絆は、より確かなものとなっています。だから、もっと知ってみませんか？  
魅力いっぱいのアフリカのこと、日本のパートナーとしてのアフリカのこと。

※本パンフレットにおける「アフリカ」は北部アフリカ諸国とサハラ砂漠以南のアフリカ諸国（サブサハラ・アフリカ）を含めた国々（54か国）を対象としています。

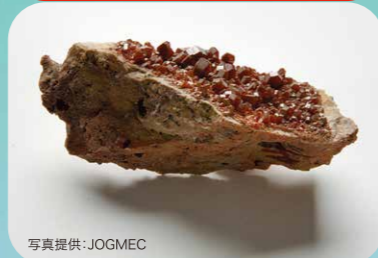


## AFRICA



### タコ

アフリカから輸入されている海産物の代表格。屋台で食べる「たこ焼き」の中にもモーリタニアやモロッコ産のタコが隠れているかも。



写真提供: JOGMEC

### 鉱物資源

スマートフォンなどの電子機器、クリーンエネルギーや電気自動車にも不可欠。アフリカは、日本の経済にも重要な鉱物の一大生産地です。



### オクラ

アフリカ原産の野菜と言えば、エジプトのモロヘイヤが有名ですが、夏の定番野菜・オクラも、生まれ故郷はアフリカ北東部。

### ゴマ

食卓でも身近なゴマ。日本はブルキナファソやナイジェリア、タンザニア、モザンビーク、エチオピアから輸入し、主に製油用(ごま油)に利用されています。



### オクラ

アフリカ原産の野菜と言えば、エジプトのモロヘイヤが有名ですが、夏の定番野菜・オクラも、生まれ故郷はアフリカ北東部。



### シアバター

西アフリカに育つシアの木の種子から採れる油脂。日本では、乾燥する冬には欠かせない美容品としても使われています。



### チョコレート

みんな大好きチョコレートの原料となるカカオ豆の約80%は、ガーナから輸入しています。



### コーヒー

日本は、世界屈指のコーヒー消費国。コーヒー発祥の地とも言われるエチオピアをはじめ、タンザニア、ケニア等から輸入しています。



### ルイボスティー

ノンカフェインの健康茶として大人気。実はアフリカに自生する植物から作られ、南部アフリカの人々の間で飲み続けられてきました。



### セネガル相撲

相撲というよりはレスリングに近い、セネガルで人気の伝統的な格闘技。試合前には魔除けの儀式も行われ、チャンピオンは国民的なヒーローに。



写真提供: 鹿児島県三島村

### ジャンベ

アフリカの代表的な伝統楽器。ギニア出身のママディ・ケイタ氏との交流をきっかけに鹿児島県三島村では、1994年からジャンベを通じた交流が続いています。

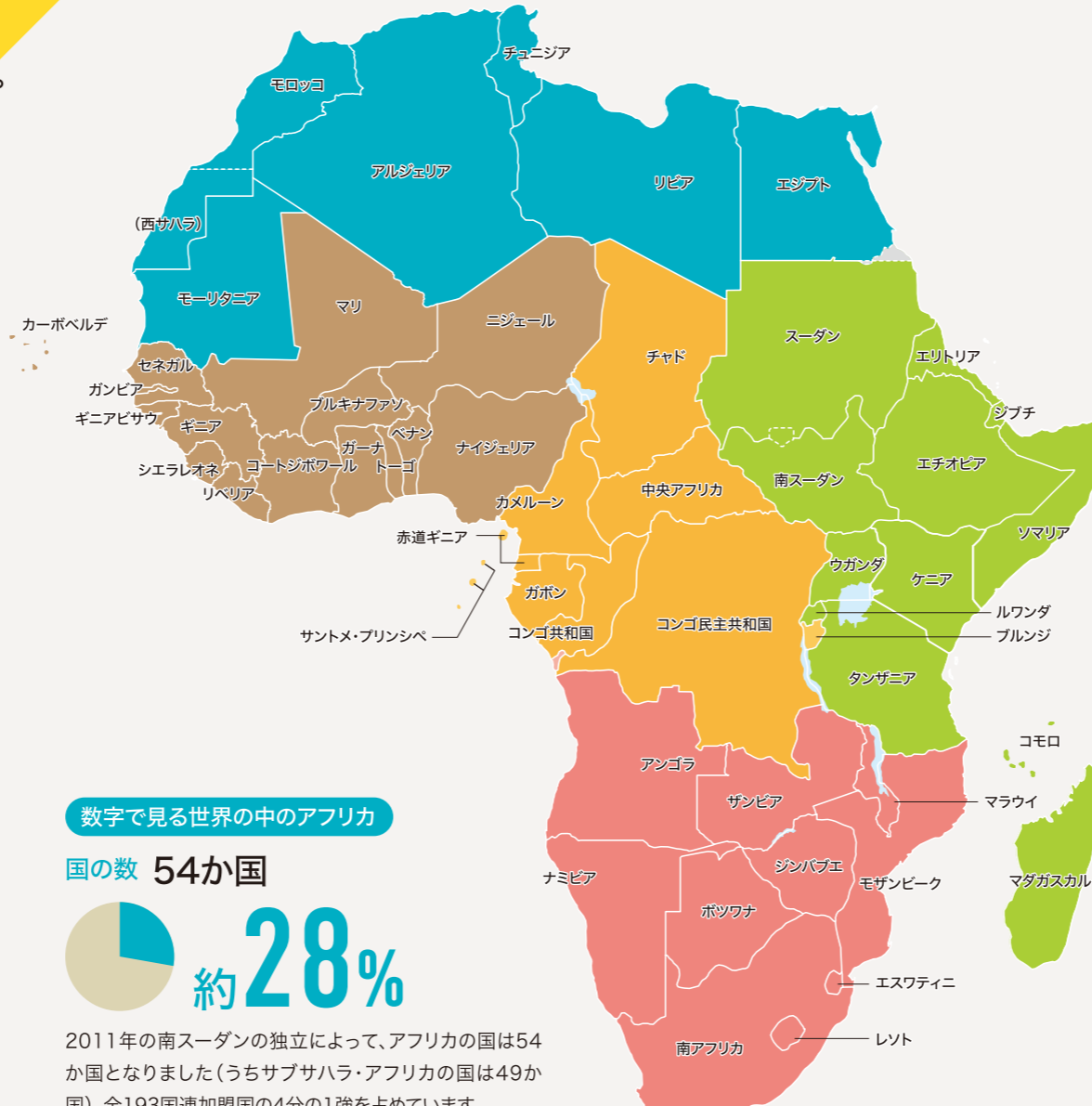


# アフリカという大陸

# Africa Today

54か国を擁するアフリカ大陸は、東西南北及び中部の5つのエリアに区分されます\*1。  
 北部アフリカを除くサハラ以南のアフリカは「サブサハラ・アフリカ」と呼ばれています。  
 アフリカに暮らす日本人は約6,500人\*2、  
 日本に暮らしているアフリカ人は約2万7,000人と言われています\*3。

\*1: アフリカ連合(AU)の分類基準による。  
 \*2: 出典: 海外在留邦人数調査統計2025年10月  
 \*3: 出典: 法務省「在留外国人統計」2025年6月



## 西部アフリカ(15か国)

<b>ガーナ共和国</b> 首都: アクラ 人口: 3,510万人 主要言語: 英語	<b>カーボベルデ共和国</b> 首都: プライア 人口: 50万人 主要言語: ポルトガル語、クレオール語	<b>ガンビア共和国</b> 首都: リンデュール 人口: 280万人 主要言語: 英語、マンディンゴ語、ウォロフ語	<b>ギニア共和国</b> 首都: コナクリ 人口: 1,510万人 主要言語: 仏語	<b>ギニアビサウ共和国</b> 首都: ビサウ 人口: 230万人 主要言語: ポルトガル語
<b>コートジボワール共和国</b> 首都: ヤムスクロ 人口: 3,270万人 主要言語: 仏語	<b>シエラレオネ共和国</b> 首都: フリータウン 人口: 880万人 主要言語: 英語、メンデ語	<b>セネガル共和国</b> 首都: ダカール 人口: 1,890万人 主要言語: 仏語、ウォロフ語	<b>トーゴ共和国</b> 首都: ロメ 人口: 970万人 主要言語: 仏語	<b>ナイジェリア連邦共和国</b> 首都: アブジャ 人口: 2億3,750万人 主要言語: 英語、ハウサ語、ヨルバ語、イボ語
<b>ニジェール共和国</b> 首都: ニアメ 人口: 2,790万人 主要言語: 仏語、ハウサ語	<b>ブルキナファソ</b> 首都: ワガドゥガ 人口: 2,410万人 主要言語: 仏語、モン語、ディウララ語、グルマンチュ語	<b>ベナン共和国</b> 首都: ココト 人口: 1,480万人 主要言語: 仏語	<b>マリ共和国</b> 首都: バマコ 人口: 2,520万人 主要言語: 仏語、バンバハラ語	<b>リベリア共和国</b> 首都: モンロビア 人口: 570万人 主要言語: 英語

## 中部アフリカ(9か国)

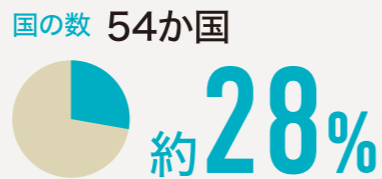
<b>ガボン共和国</b> 首都: リベールビル 人口: 260万人 主要言語: 仏語、英語	<b>カメルーン共和国</b> 首都: ヤウンデ 人口: 2,990万人 主要言語: 仏語、英語	<b>コンゴ共和国</b> 首都: ブラザビル 人口: 650万人 主要言語: 仏語、リンガラ語	<b>コンゴ民主共和国</b> 首都: キンシャサ 人口: 1億1,280万人 主要言語: 仏語、キンコンゴ語、リンガラ語	<b>サントメ・プリンシペ民主共和国</b> 首都: サントメ 人口: 20万人 主要言語: ポルトガル語
<b>チャド共和国</b> 首都: ニジェメナ 人口: 2,100万人 主要言語: 仏語、アラビア語	<b>中央アフリカ共和国</b> 首都: バンギ 人口: 550万人 主要言語: 仏語、サンゴ語	<b>ブルンジ共和国</b> 首都: ギチガ 人口: 1,440万人 主要言語: 仏語、キルンジン語	<b>赤道ギニア共和国</b> 首都: シンダウ・デラ・バタ 人口: 190万人 主要言語: スペイン語、仏語、ポルトガル語、ファン語、アビ語	

## 日本に暮らすアフリカ人の国別ベスト3

1. ナイジェリア	2. ガーナ	3. エジプト
4,654人	3,270人	2,585人

出典: 法務省「在留外国人統計」2025年6月

## 数字で見る世界の中のアフリカ



2011年の南スーダンの独立によって、アフリカの国は54か国となりました(うちサブサハラ・アフリカの国は49か国)。全193国連加盟国の4分の1強を占めています。

人口 約14億7,419万人



アフリカの人口は年々増え続けており、世界の約5人に1人がアフリカ人。(サブサハラ・アフリカの人口は約12億5,000万人)。

出典: UNFPA「世界人口白書 2025」

面積 約3,000万km<sup>2</sup>



全世界の約23%を占める広大な土地を持っています(うちサブサハラ・アフリカの面積は約2,424万km<sup>2</sup>)。アフリカ最大のアルジェリアは日本の約6倍の大きさです。

## 北部アフリカ(6か国)

<b>アルジェリア民主人民共和国</b> 首都: アルジェ 人口: 4,740万人 主要言語: アラビア語、仏語	<b>エジプト・アラブ共和国</b> 首都: カイロ 人口: 1億2,400万人 主要言語: アラビア語	<b>チュニジア共和国</b> 首都: チュニス 人口: 1,240万人 主要言語: アラビア語、仏語	<b>モーリタニア・イスラム共和国</b> 首都: ノアキョット 人口: 530万人 主要言語: アラビア語、仏語	<b>モロッコ王国</b> 首都: ラバト 人口: 3,840万人 主要言語: アラビア語、仏語	<b>リビア</b> 首都: トリポリ 人口: 750万人 主要言語: アラビア語

## 東部アフリカ(14か国)

<b>ウガンダ共和国</b> 首都: カンパラ 人口: 5,140万人 主要言語: 英語、ルガンダ語、スワヒリ語	<b>エチオピア連邦民主共和国</b> 首都: アディスアベバ 人口: 1億3,550万人 主要言語: アムハラ語、英語	<b>エリトリア国</b> 首都: アスマラ 人口: 360万人 主要言語: ティグリニヤ語、アラビア語、英語、諸民族語	<b>ケニア共和国</b> 首都: ナイロビ 人口: 5,750万人 主要言語: 英語、スワヒリ語	<b>コモロ連合</b> 首都: モロニ 人口: 90万人 主要言語: 仏語、アラビア語、コモロ語
<b>ジブチ共和国</b> 首都: ジブチ 人口: 120万人 主要言語: アラビア語、仏語、マリ語	<b>スーダン共和国</b> 首都: ハルツーム 人口: 5,170万人 主要言語: アラビア語、英語	<b>セーシェル共和国</b> 首都: ビクトリア 人口: 10万人 主要言語: 英語、仏語、クレオール語	<b>ソマリア連邦共和国</b> 首都: モガディシュ 人口: 1,970万人 主要言語: ソマリ語、アラビア語、英語、イタリア語	<b>タンザニア連合共和国</b> 首都: ドドマ 人口: 7,060万人 主要言語: スワヒリ語、英語
<b>マダガスカル共和国</b> 首都: アンタナナリボ 人口: 3,270万人 主要言語: 仏語、マダガスカル語	<b>南スーダン共和国</b> 首都: ジュバ 人口: 1,220万人 主要言語: 英語、部族言語	<b>モザンビーク共和国</b> 首都: マプト 人口: 1,300万人 主要言語: 英語、仏語、クレオール語	<b>ルワンダ共和国</b> 首都: キギリ 人口: 1,460万人 主要言語: 英語、仏語、ルワンダ語、スワヒリ語	

## 南部アフリカ(10か国)

<b>アンゴラ共和国</b> 首都: ルアンダ 人口: 3,900万人 主要言語: ポルトガル語、ウンブンドゥ語	<b>ザンビア共和国</b> 首都: ルサカ 人口: 2,190万人 主要言語: 英語、ベンバ語	<b>ジンバブエ共和国</b> 首都: ハハラ 人口: 1,700万人 主要言語: 英語、ショナ語、ンデベレ語	<b>エスワティニ王国</b> 首都: ムババーネ 人口: 1,130万人 主要言語: 英語、スワティ語	<b>ナミビア共和国</b> 首都: ヴントフック 人口: 310万人 主要言語: 英語、アフリカーンス語
<b>ボツワナ共和国</b> 首都: ハボローネ 人口: 260万人 主要言語: 英語、ツワナ語	<b>マラウイ共和国</b> 首都: リロングウェ 人口: 2,220万人 主要言語: 英語、チェワ語	<b>南アフリカ共和国</b> 首都: プレトリア 人口: 6,480万人 主要言語: 英語、アフリカーンス語、ズールー語	<b>モザンビーク共和国</b> 首都: マプト 人口: 3,560万人 主要言語: ポルトガル語、バンバハラ語	<b>レソト王国</b> 首都: マセル 人口: 240万人 主要言語: 英語、ソト語

出典: UNFPA「世界人口白書 2025」

## 素顔のアフリカ

### アルジェリア

**カスバ**  
首都アルジェの丘に建つ旧市街。階段状の狭い路地が家々の隙間を縫うように張り巡らされています。

### アンゴラ

**ウェルウィッチア**  
アンゴラ南部からナミブ砂漠地帯の荒野に生息する奇抜な植物。寿命は平均500~600年、中には2000年以上と推測されるものも。

### ウガンダ

**ナイル川の源**  
「母なる川ナイル」の源はルウェンゾリ山地のマルゲリータ峰。標高5,109mの山頂に広がる氷河の雪解け水がナイルの最初の一滴。

### エジプト

**大エジプト博物館**  
日本の支援で2025年末に正式開館。ツタンカーメン王の全副葬品を始め、古代エジプト文明の遺物10万点を所蔵。ギザのピラミッド群も一望できます。

### エスワティニ

**スワジ・キャンドル**  
火を点すと、花や動物などの柄が内側から照らし出され、ステンドグラスのよう。ミル・フィオーレという技術が取り入れられています。

### エチオピア

**コーヒーセレモニー**  
親しい客を迎えたり、祭礼の際に行われるコーヒーによるもてなし。生豆を煎ることから始め、1時間以上かけてゆっくりと楽しめます。

### エリトリア

**アールデコの建物**  
首都アスマラは、イタリア領時代に造られたアールデコ建築が約4,300軒残されており、世界遺産に登録されています。

### ガーナ

**カカオ**  
枝だけではなく、幹にも実をつけるカカオの樹。ラグビーボールのような実が幹にいくつもぶら下がっているのは何とも不思議な光景。

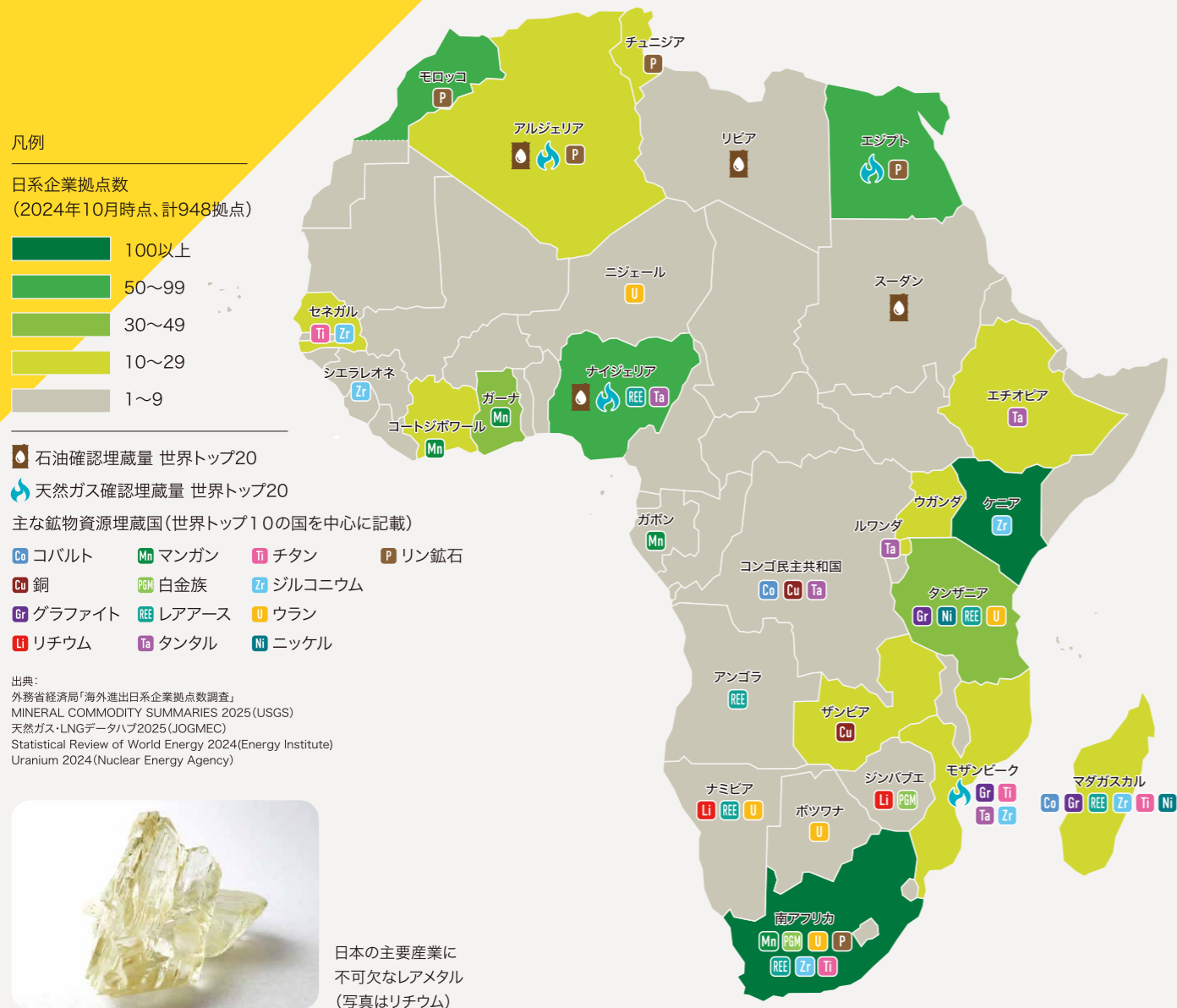
### カーボベルデ

**故セザリア・エヴォラ**  
カーボベルデ出身の女性歌手で、1988年発売の「Sodade」が大ヒット。カーボベルデの音楽ルナを世界に知らしめました。

# 成長大陸アフリカ

高い人口増加率による若い人口と豊富な天然資源を有するアフリカは、ダイナミックな成長が期待できる大陸として世界の注目を集めています。近年では、アフリカ大陸全体での政治的・経済的統合が進み、海外からの直接投資や内需も拡大し、更なる成長が見込まれます。特にサブサハラ・アフリカは、GDPは世界平均の1.25倍、GNIは世界平均の約2倍という伸び率を誇ります。

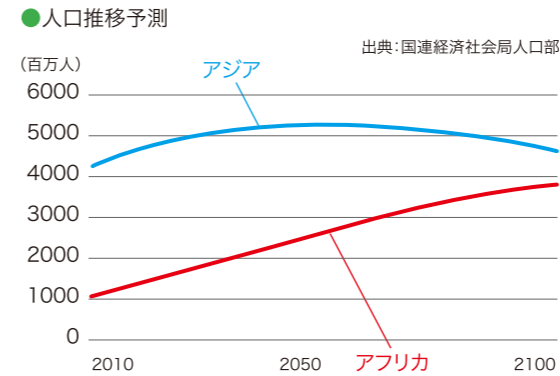
## アフリカの鉱物・エネルギーと日本企業の進出状況



# Dynamic Africa

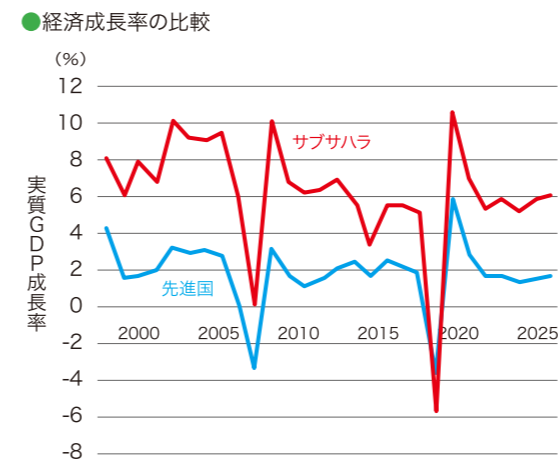
## 可能性を秘めた20億人市場

アジアの人口が2060年前後から減少し始めるのに対し、アフリカの人口は今後10年ごとに3億人ずつ増加、2050年には2010年の2倍以上、約25億人になる見込みです。



## サブサハラ・アフリカは高い成長率を維持

2000年~2024年のサブサハラ・アフリカの平均経済成長率は4.4%で、高所得国の1.9%を上回っています。資源価格の低迷やエボラ出血熱等の感染症の発生により、サブサハラ・アフリカの経済成長率は2013年以降減速し、2020年には新型コロナウイルスの発生により大きく低下しましたが、その後経済は回復基調にあり、近年では高い成長率を維持しています。

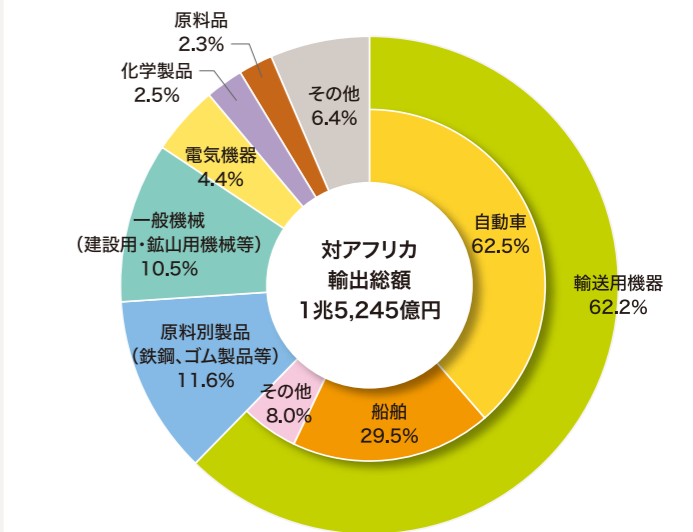


## 日本とアフリカの経済関係

2025年の日本・アフリカの貿易総額は、輸出額が1兆5,245億円、輸入額が1兆5,155億円となっています。

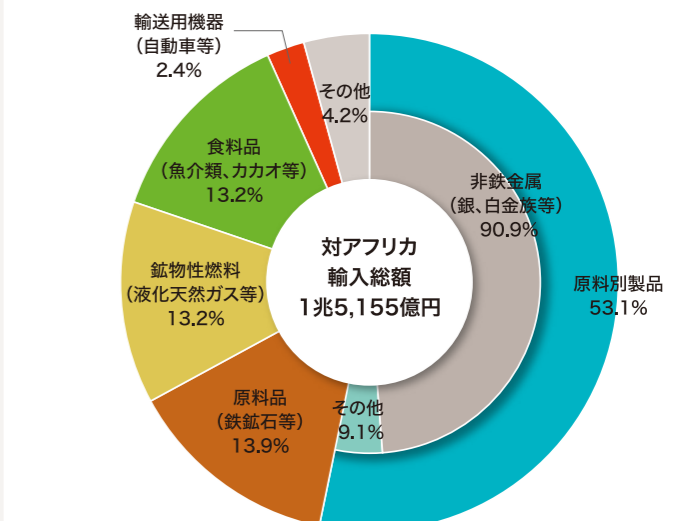
〈日本の輸出先相手国ベスト3(2025年)〉

1.南アフリカ:22.7% 2.リベリア:19.1% 3.ケニア:12.5%



〈日本の輸入先相手国ベスト3(2025年)〉

1.南アフリカ:65.1% 2.ナイジェリア:6.9% 3.ガーナ:4.8%



## 素顔のアフリカ

### ガボン

熱帯雨林  
ジュバイツァー博士が医療活動を行った地、ガボン。国土の85%が熱帯雨林に覆われ、ゴリラ等霊長類の貴重な生息地となっています。

### カメルーン

王国郡  
伝統的な文化を維持する多くの王国が存在。中でも14世紀に建国された西部州バフッサム近郊のバムーン王国の王宮が有名です。

### ガンビア

小説『ルーツ』  
アフリカ系米国人作家アレックス・ヘイリーの自伝的小説『ルーツ』のモデル国。世界遺産のクンタ・ケンベ島は小説の主人公の名前に由来。

### ギニア

地図  
ギニアの国土基本図(地図)を作成したのは日本人。本島建三が率いる測量隊が全土を歩き、5年がかりで地図を完成させました。

### ギニアビサウ

カシューナッツ  
ギニアビサウの輸出品の大部分を占めるカシューナッツ。ナッツは、カシューアップルと呼ばれるピーマン型の果実の先端になります。

### ケニア

バラ  
ケニアの輸出品の第1位は紅茶で、第2位が園芸作物。中でもバラは赤道直下かつ高地という栽培条件に恵まれ日本への輸出も急増中。

### コートジボワール

象  
国名は「象牙海岸」の意。国章にはヤシの木や太陽と一緒に象が描かれ、代表チームの愛称は「レ・ゼレファン(象)」。国の重要なシンボルです。

### コモロ

シーラカンス  
コモロの近海で、息子が確認されたシーラカンス。1990年、鳥羽水族館がコモロ政府と共同で調査を実施し、日本で初めてビデオ撮影に成功。

### コンゴ共和国

サブール  
ファッションに給与の大半をつぎ込みおしゃれをして、ステップを踏みながら街を歩くグループ。武器を持たずに平和を願うのがモットー。

# より豊かで安定した社会へ アフリカと日本の取組

アフリカの成長が持続的かつ包括的なものとなるためには、安定した社会が必要です。  
アフリカは地域全体の安定と発展を目指す取組を進め、  
日本は人材育成やアフリカ内外の連結性強化など様々な角度からそれを後押ししています。

## 進むアフリカの統合 AUとAfCFTA

アフリカに対する国際的な関心の高まりを支える動きとして、アフリカ連合(AU)を中心として進められているアフリカ域内の政治的及び経済的統合に向けた取組が挙げられます。AUは、アフリカ域内の平和、安全保障、経済開発、政治統合を推進することを目的として2002年に設立された地域機関で、現在55の国・地域が加盟しています。発足して20余年、加盟国間の対話や紛争解決の促進、民主主義の発展や法の支配の強化等の取組を通じ、地域の安定化に貢献して来ました。こうした中、2023年にAUがG20の常任メンバーに加わったことは、AUがアフリカだけではなく国際社会の中で重要な役割を果たしていることを示す転換点となりました。

加えて、近年では、経済統合に向けた取組も加速しています。中でも、2021年に運用が開始されたアフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)は、関税の段階的撤廃や非関税障壁の削減を通じたアフリカ諸国間の貿易促進を目指しています。こうした経済統合の深化は、日本を含むアフリカ域外の経済にも影響を与えるものとして注目が集まっています。

しかし、アフリカの統合には、政治的な不安定性や紛争、経済格差、開発資金の不足など、引き続き課題も多く存在しており、こうした課題にいかに対応できるかが重要です。



アフリカ連合の旗



ガーナにおける国道八号線の改修工事  
写真提供: 飯塚明夫/JICA



写真提供: 住友化学

## アフリカの開発課題と日本の取組

近年急速に成長するアフリカは、同時に、急速な人口増加や気候変動、貧困や格差といった多様な複合的な開発課題にも直面しています。AUは2015年に今後約50年を見据えた開発大綱である「アジェンダ2063」を採択しました。このアジェンダは、アフリカ自身の決定、民主主義、法の支配、人権等様々な目標に言及し、人間の安全保障や包摂的な社会づくり、持続可能な開発を重視する点が特徴的です。

日本は、アジェンダ2063の理念を尊重しつつ、アフリカ各国の主體的な努力を後押しする形で開発協力を進めています。その中核をなすのがアフリカの自立的成長の土台となる人づくりであり、日本は、産業、保健、司法・行政等の幅広い分野で人材育成に取り組んでいます。

また、日本は質の高いインフラ整備にも力を入れており、安全性や耐久性、環境等に配慮しつつ、道路や港湾、エネルギー、デジタル分野などにおけるAUの自発的取組に寄り添った支援を行っています。これらは、アフリカ域内の連結性向上や経済活性化を促し、雇用創出や民間投資の呼び込みにもつながっています。

### 素顔の アフリカ

#### コンゴ民主共和国

リンガラ  
首都キンシャサ発祥のアフリカ大陸でメジャーな大衆音楽。リンガラ語で歌われることから「リンガラポップス」等とも呼ばれ、ユネスコの文化遺産に登録されています。

#### サントメ・プリンシペ

ユネスコ生物圏保護区  
サントメ島とプリンシペ島、周辺の島々から成る島国で、国全体がユネスコの生物圏保護区に指定されています。

#### ザンビア

ウォーキング・サファリ  
サウス・ルアンゴア国立公園はウォーキング・サファリ発祥の地。野生動物の足跡、鳴き声、匂いなどに間近で触れ、雄大な大自然を堪能できます。

#### シエラレオネ

ピントゥマニ山  
シエラレオネは自然豊かな国ですが、西に大西洋を臨むのに対し、東には西アフリカ最高峰のピントゥマニ山(1,948m)がそびえています。

#### ジブチ

アッサル湖  
ジブチの中央にあり、死海よりも塩分濃度が高い塩湖。ここでは、真珠のように丸い塩の結晶を見ることが出来ます。

#### ジンバブエ

ビクトリアの滝  
ジンバブエとの国境にまたがる世界三大瀑布の一つ。地元では「モシ・オトゥンヤ(雷鳴轟く水煙)」と呼ばれ数キロ先からでも水煙が見えます。

#### スーダン

2つのナイル  
青ナイルと白ナイルが首都ハルツームで合流。橋の上から、色の異なる両ナイルが合流する様子を見ることが出来ます。

#### セーシェル

地上最後の楽園  
世界に名だたるリゾート・アイランド。英国のウィリアム皇太子殿下とキャサリン妃殿下の新婚旅行先としても話題になりました。

#### 赤道ギニア

バンヤの木  
国花は、国旗にも描かれているバンヤの木です。種子から植物油がとれるため、「神の木」と呼ばれています。

# Towards a Stable Society

## 保健分野での取組



アフリカの保健スタートアップ60社以上への投資事業を展覧(写真提供: AAIC Investment社)

日本は、アフリカでの裾野の広い健康・医療サービスの充実への協力を官民一体となって目指す「アフリカ健康構想」の下、日本の健康・医療産業が有する技術や知見を活かし、アフリカの保健課題解決に貢献してきています。その中にはアフリカ専門ファンドを立ち上げ、保健課題に取り組むスタートアップに投資し、課題解決策を提供する事業を展開する企業もあります。

## 若者・女性の能力開発と人材育成



若者・女性の活躍を支援(写真提供: UNDP)

日本は、基礎教育へのアクセス向上を支援するとともに、若者・女性の能力開発を支援していきます。

具体的には、汎アフリカ仮想・電子大学(PAVEU)による統合モバイル学習の拡大、数百人規模の高校生・大学生による交流プログラムの新規立ち上げ、AIに関する産業人材の育成などを行っています。

## 日・インド洋諸国連携によるアフリカの実現



インド洋・アフリカ経済圏フォーラム(写真提供: 外務省HP)

インドや中東諸国、そしてアフリカ諸国は、若い人口と多くのエネルギー資源を擁し、高い経済成長を実現する地域として、存在感を高めています。日本は、「インド洋・アフリカ経済圏イニシアティブ」の下、インド洋諸国と協力しながらこの地域の連結性を一層高め、貿易・投資を盛んにすることで、アフリカの更なる成長を実現していきます。

## 広がるアニメ・コンテンツ産業



アニソン・コンサート(2026年1月、アビジャン)(写真提供: 国際交流基金nonosday)

日本は、若者人口が拡大するアフリカと日本のコンテンツ産業を結びつける取組を、官民で連携して行っています。2025年度には、JETROがポップカルチャー事情の現地視察ミッションとして日本企業をアフリカへ派遣し、現地企業とのマッチング機会を設けました。また、国際交流基金はアニソン・コンサートを開催し、多くのファンが熱狂しました。アニメ人材育成の取組も始まっています。

# 成長の礎、平和と安定のために

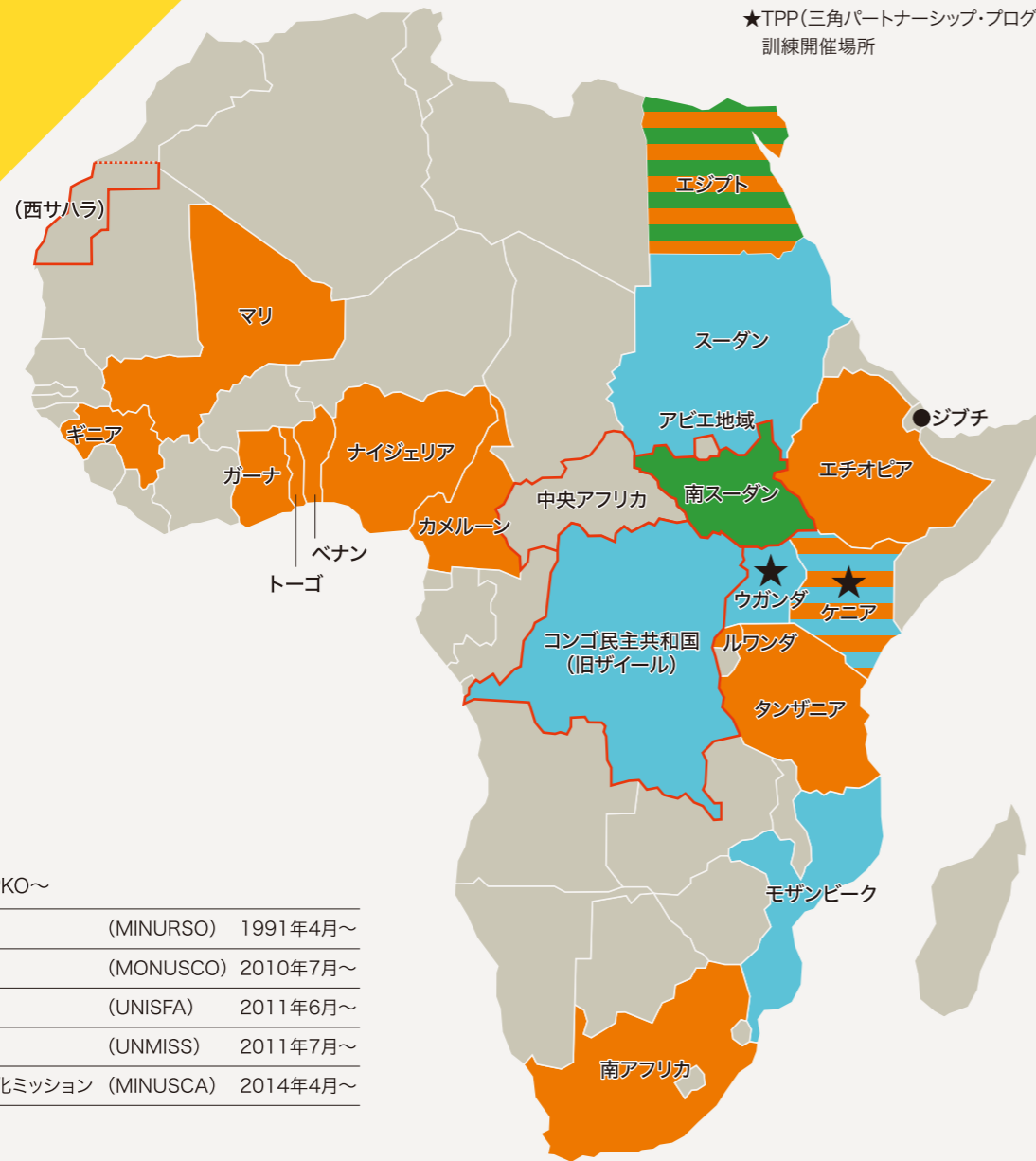
アフリカでは、依然として紛争・テロ等により不安定な国・地域があり、深刻な課題となっています。

国の発展に平和は不可欠。日本は、平和の定着に加え、

アフリカ自らが平和を維持する能力を高められるよう取り組んでいます。

## 国連PKOの派遣地域と日本の活躍

- 国連PKOが展開する地域
- 現在、自衛隊から司令部要員を派遣している国
- 現在、自衛隊等が活動している国
- これまでに日本がPKO訓練センターを支援した国
- これまでに自衛隊等が活動した国・地域
- ★ TPP(三角パートナーシップ・プログラム) 訓練開催場所



～現在アフリカに展開する国連PKO～

国連西サハラ住民投票監視団	(MINURSO)	1991年4月～
国連コンゴ(民)安定化ミッション	(MONUSCO)	2010年7月～
国連アビエ暫定治安部隊	(UNISFA)	2011年6月～
国連南スーダン共和国ミッション	(UNMISS)	2011年7月～
国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション	(MINUSCA)	2014年4月～

出典:国連平和活動局 HP

# Peace and Stability

## PKO訓練センターへの支援



エチオピアの研修で平和・安全保障の理論と実践を学ぶ受講者たち(2023年)(写真提供:外務省)

平和維持のためには、その活動に従事するアフリカの要員の養成が重要です。日本は、2008年から2025年までに、自衛官や民間の専門家等の講師の派遣を含め、アフリカの14か国、16か所のPKO訓練センターへ支援を実施してきました。最近では、「女性PKO要員の訓練」「サイバー犯罪への対処」「平和構築に関する修士課程の設置」など取組が多様化しています。

## 日本の技術を用いた地雷被害者支援



ナイジェリアでの義肢製造(写真提供:UNIDO)

日本の3Dプリンタ義肢技術を活用し、アフリカにおける3Dプリンタ義肢へのアクセス向上を目的とした地雷被害者支援を実施しています。国連工業開発機関(UNIDO)を通じて、3Dプリンタ義肢製造能力の強化や地雷被害者への義肢製造・供給のほか、グローバル・フォーラムを通じた補助機器産業の促進を行っています。

## 地域の平和と安定に協力する自衛隊



写真提供:PKO事務局

南スーダンで平和維持活動を行うUNMISSに司令部要員を派遣し、兵站、情報、施設、航空運用に関する調整等を実施しています。

※施設隊は2017年5月末に活動を終了。



写真提供:PKO事務局

エジプトのシナイ半島で平和維持活動を行う多国籍部隊・監視団(MFO)に司令部要員を派遣し、エジプト・イスラエルとの連絡調整や施設整備業務を実施しています。



写真提供:防衛省

ソマリア沖・アデン湾での商船の安全航行の確保のため、日本の護衛艦・哨戒機が活動しています。また、ジブチには自衛隊の活動拠点を置いています。

## 国連三角パートナーシップ・プログラムを通じた支援



写真提供:防衛省

国連、支援国及び要員派遣国の3者が互いに協力し、国連PKO等に派遣される要員の訓練や装備品の提供を行うプログラムを日本が主導しています。この枠組みの下、自衛官等を訓練の教官としてアフリカ諸国へ派遣し能力構築をしているほか、2021年にはアフリカで活動するPKOに対する遠隔医療プロジェクトの開始も支援し、要員の安全確保に貢献しています。

## 素顔のアフリカ

### セネガル

ユッサー・ンドゥール

セネガルが生んだ世界的なポップ・アーティスト。メッセージ性の強い作品から「歌うジャーナリスト」とも呼ばれています。

### ソマリア

イルワード・エルマン

「銃を捨てペンを持つ」と標榜し、暗殺された父の遺志を継ぎ、同じく活動家の母と活躍中。これまで複数回ノーベル平和賞候補に。

### タンザニア

キリマンジャロ

標高5895m、アフリカ大陸の最高峰。日本でも馴染みの深いアラビカ種キリマンジャロ・コーヒーはタンザニア産。

### チャド

人類最古の祖先「トゥーマイ」

2002年、世界最古の頭骨「トゥーマイ」がフランスの調査隊によってチャドで発見されました。

### 中央アフリカ

マノヴォングダ・サン・フロリス国立公園

面積1万7,400平方キロメートルという広大な国立公園。北部の氾濫原には多くの水鳥が、南部のサバンナにはアフリカゾウやクロサイ等が生息。

### チュニジア

ハリッサ

赤唐辛子をベースに、コリアンダーやクミン等のスパイス、にんにく、オリーブオイル等を加えて作る万能調味料。クスクスに添えて。

### トーゴ

ドイツ文化

旧宗主国ドイツの影響を受け、ビールとソーセージの美味しさは天下一品!アフリカナンパーワンの呼び声が高いビールを生産しています。

### ナイジェリア

ハリウッド

ハリウッド、ボリウッドと並ぶ映画産業地。映画館での上映ではなく、主にオンラインやDVDで視聴されているところが特徴。

### ナミビア

ナミビ砂漠

世界最古(約8,000万歳)と言われる世界一美しい砂漠。日の出、日の入り前後に赤く染まり、幻想的な風景が楽しめます。

# 日本が主導するアフリカ開発

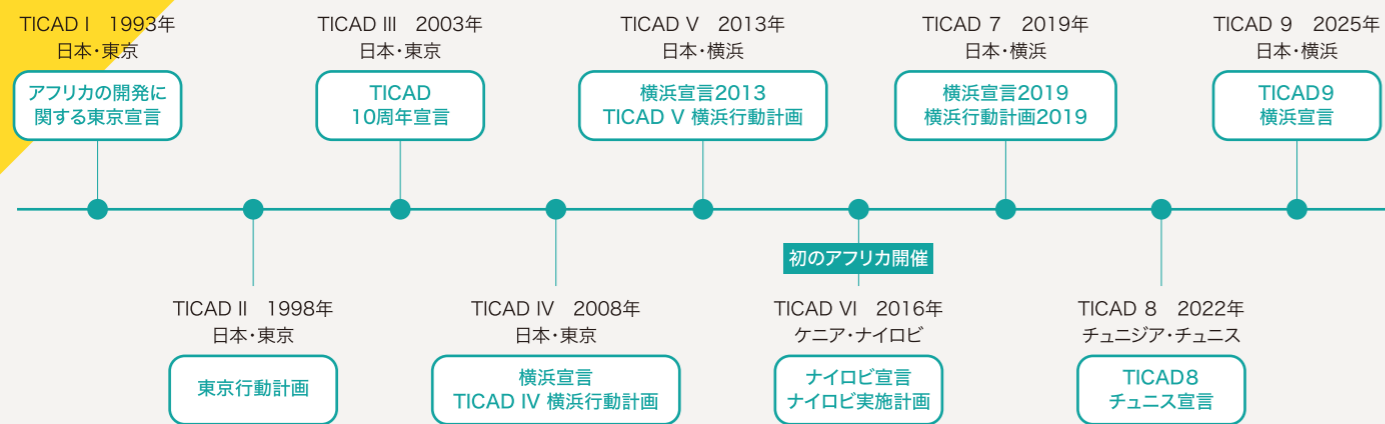
アフリカは、世界の54か国を占め、2050年には世界人口の4分の1に達するといわれるなど、若く、エネルギーと潜在力にあふれる地域です。いわゆる「グローバル・サウス」の中核を占める地域でもあり、国際社会における存在感を一層強めています。一方で、紛争やテロ、貧困、飢餓といった深刻な開発課題も抱えており、アフリカの成長の土台となるこれらの課題を解決することが必要です。日本は、アフリカの開発を後押ししつつ、信頼できるパートナーとして共に未来を創っていきます。

## アフリカ開発会議(TICAD)とは

TICAD(アフリカ開発会議:Tokyo International Conference on African Development)は、1993年に日本が先駆的に立ち上げた、アフリカ開発に関する国際会議です。TICAD創設以来日本は、アフリカの「オーナーシップ」と、日本を含む国際社会との「パートナーシップ」という基本理念の下で、一貫してアフリカの開発を後押ししてきました。この開発哲学は国際社会に共有され、アフリカ諸国にも浸透しています。日本は、引き続き、アフリカ自身が目標に掲げる開発アジェンダ2063及び地球規模課題の解決に向けた持続可能な開発目標(SDGs)を後押ししていきます。



TICAD 9参加首脳による写真撮影(8月20日、横浜)(写真提供:内閣広報室)



政府広報オンライン「HIGHLIGHTING Japan」2025年8月号より「TICADのあゆみ」を一部更新

## TICADの歩み

1989年に世界最大の援助供与国となった日本は、1993年のTICAD Iでアフリカの自助努力の必要性や南南協力の重要性について提唱し、これがアフリカに対する国際社会の関心を呼び戻すきっかけとなりました。TICAD IIではアフリカの「貧困削減と世界経済への統合」をテーマに掲げ、TICAD IIIではアフリカ自身の取組を後押しすべくNEPAD<sup>※1</sup>に支援を結集することに合意し、TICAD IVでは人間の安全保障<sup>※2</sup>をアフリカ開発における重要な考え方の一つと位置付けました。

その後、アフリカの経済成長が進んだことに伴い、TICAD Vでは「援助か

ら投資へ」を掲げ、以後、アフリカを援助の対象ではなくビジネスパートナーとして位置付け、貿易・投資を促進すべく議論を重ねてきました。初のアフリカ開催となったTICAD VIでは「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」を提唱したほか、TICAD 7では民間企業を公式なパートナーとして迎え官民の直接対話を実施し、TICAD 8では「人への投資」を重視した取組を表明するなど、アフリカの声に絶えず耳を傾け、また、国際社会の動きも踏まえながら、様々な側面からアフリカの開発に取り組んできています。

※1:アフリカ開発のための新パートナーシップ。2001年に発足した、アフリカ自身によるアフリカ開発のためのイニシアティブ。  
 ※2:人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方。

# Tokyo International Conference on African Development

## TICAD9



TICAD 9には、アフリカ49か国(うち首脳級33名)に加え、共催者(国連、国連開発計画(UNDP)、世界銀行、アフリカ連合委員会(AUC))、国際機関、民間企業、国会議員、市民団体等、多岐かつ多数の関係者が参加しました。会合では、分野別の3つの全体会合と官民ビジネス対話が開かれたほか、並行して国際機関や民間企業、学術機関、市民社会、各省庁等が主催する200以上のテーマ別イベントが開催され、幅広い分野について、様々なアクターによる議論や交流が行われました。また、この機会に石破総理大臣(当時)は34件、岩屋外務大臣(当時)は30件、それぞれアフリカ各国・国際機関の代表との間で会談等を行い、アフリカ各国のニーズに沿った協力、また、国連安全保障理事会の改革を含む国際場裡(り)における協力等について意見交換を行いました。

### 革新的な課題解決策の共創



TICAD 9開会式(8月22日、横浜)

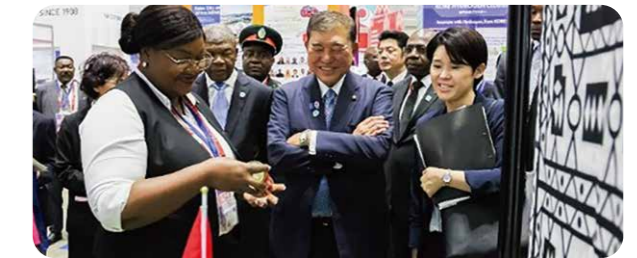
TICAD 9では、アフリカの、ひいてはグローバルな課題に対する革新的な解決策をアフリカと共に創ることをテーマに掲げ、経済、社会、平和と安定の3分野について会合が開かれました。特に、各分野を横断する重要事項として、民間セクター主導の持続的な成長、若者・女性、地域統合及び域内外の連結性に焦点を当て、活発な議論が行われました。3日間の議論の成果は、首脳宣言である「TICAD 9横浜宣言」にまとめられ、最終日に採択されました。

### 日本の取組

日本は、TICAD 9において、今後次の七つの分野について取組を加速させることを表明しました。  
 (1)アフリカへの投資促進、(2)民間資金動員の促進、(3)AI・DX(デジタル・トランスフォーメーション)の活用と鉱物資源サプライチェーン強靱(じん)化を含む産業協力強化、(4)アフリカ域内外の連結性強化、(5)保健政策の強化、(6)若者・女性に焦点を当てた人材育成・人材交流、(7)アフリカの平和と安定に向けた取組の進展。  
 具体的には、地域の輸送インフラ整備・強化及び産業振興を進める広域オファー型協力<sup>※3</sup>「ナカラ回廊開発によるグローバル・サプライチェーンの強靱化」や、日本とアフリカの経済連携強化のために日・アフリカ双方で議論する産学官検討委員会の立ち上げなどを表明しました。

※3:日本の強みを活かした魅力的な協力メニューを途上国に積極的に提案し、相手国との対話や、社会に変化をもたらす新しい価値を共に生み出す「共創」を通じて開発目標を達成することを目指す、開発協力の一つ。

### 日・アフリカ間のビジネスの促進



「TICAD Business Expo & Conference」の企業ブースを視察する石破総理大臣(当時)(8月21日、横浜)(写真提供:内閣広報室)

日本企業のアフリカへの関心はますます増してきており、TICAD 9では324件のビジネス関連の協力文書が結ばれました。また、テーマ別イベントとしてJETROが主催したTICAD Business Expo & Conferenceには、過去最多の194企業・団体が出展し、日・アフリカ双方の企業関係者等約1万人が参加しました。

### 若者の活躍



Youth Forumの様子(8月20日、横浜)

2050年には、世界の若者人口の3分の1以上をアフリカ諸国が占めることになると予測されています。こうした時代背景を踏まえ、TICAD 9期間中には、日本とアフリカ双方の若者の声を取り入れる観点から、若者版TICADとして日本とアフリカの若者延べ約400人が参加したYouth Forumや、模擬国連に做った模擬アフリカ連合会議など、若者によるイベントが多数開催されました。

## 素顔のアフリカ

### ニジェール

トゥアレグの人びと  
ラクダのキャラバンを率いて砂漠を旅するトゥアレグの人びと。ターバンを巻き、青い民族衣装を着ているため「青の民」とも呼ばれます。

### ブルキナファソ

高潔な人々  
ブルキナファソという国名は現地語で「高潔な人々の国」の意。路上が自転車やバイクであふれても、駐輪場では驚くほどの整列駐輪。

### ブルンジ

コーヒーと紅茶  
隣国ルワンダと同じように、丘の連なる高原の国。その地形を活かして栽培されたコーヒーや紅茶は、日本にも輸入されています。

### ベナン

ブドゥー教  
ベナンはブドゥー教発祥の地。日本の八百万の神に似て、ブドゥー教にも鉄の神様や蛇の神様といったユニークな神様がいっぱい!

### ボツワナ

チョベ国立公園  
北東部に広がる1万1,000平方キロメートルの国立公園には、約12万頭のゾウが生息。チョベ川のリバークルーズではカバやワニを見ることも。

### マダガスカル

豊かな動植物  
独自の動植物相を持ち、「星の王子様」に登場するバオバブのほとんどがマダガスカルの固有種。バニラの世界最大生産地。

### マラウイ

マラウイ湖  
国土の約5分の1を占めるマラウイ湖には500種類以上の魚類が生息し、そのほとんどが固有種。南端のマラウイ湖国立公園は世界遺産。

### マリ

グリオ  
「グリオ」と呼ばれる世襲制の音楽家の家系があり、祭りや祝い事には彼らが呼ばれ、楽器を演奏しながら一族を讃える歌を歌います。

### 南アフリカ

故ネルソン・マンデラ元大統領  
政治犯として投獄されたロベン島刑務所で、同志と英語等を学び合って士気を保ったという話は「ロベン島大学」として語り継がれています。

# 多様性の大陸、アフリカ

# Land of Diversity

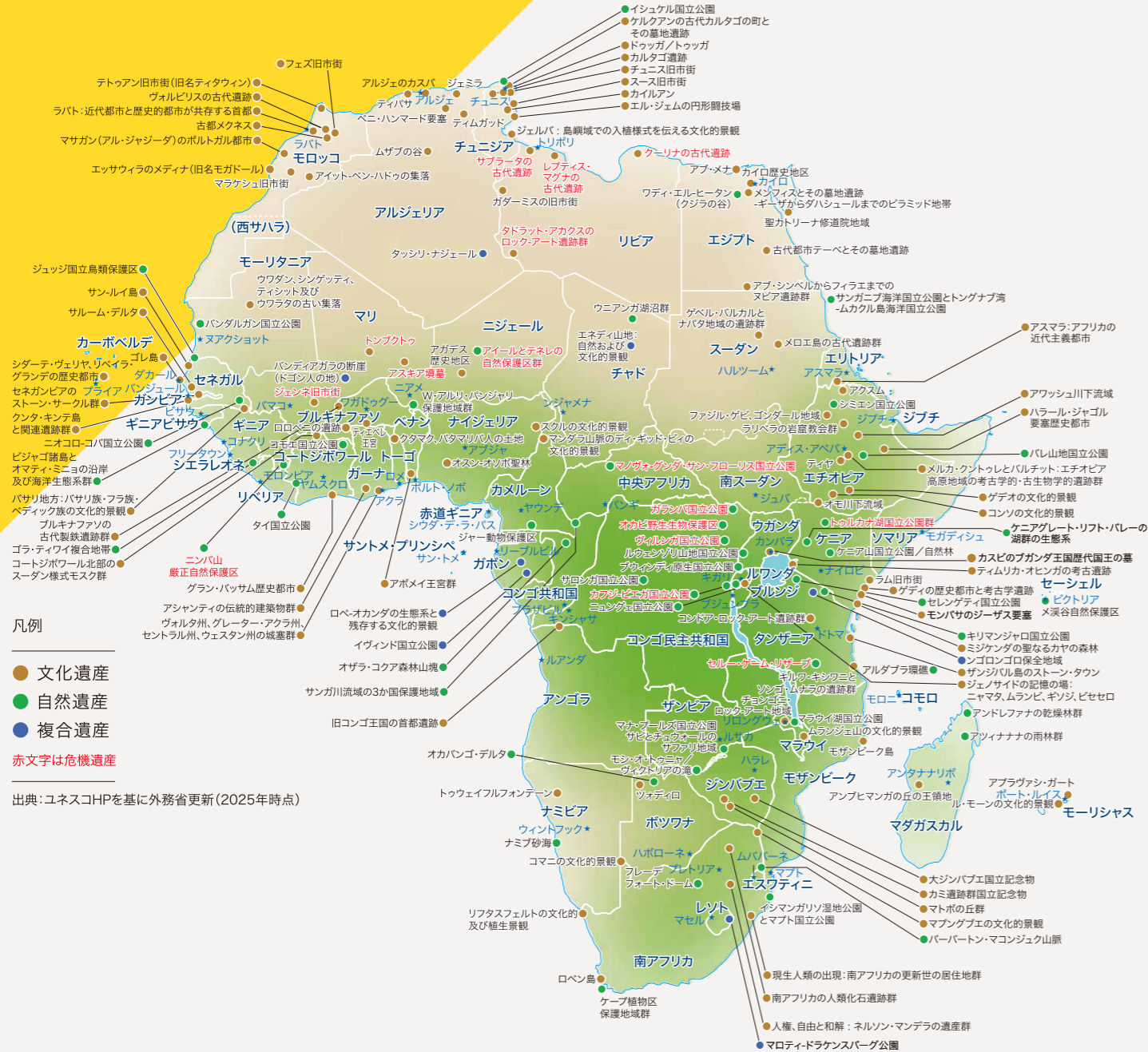
人類の起源とされるアフリカですが、多様性の宝庫でもあります。

様々な民族が交錯した痕跡を独特の文化として残す、北アフリカのマグレブと呼ばれる地域。

そして、砂漠から熱帯雨林まで厳しくも豊かな自然の宝庫、サブサハラ・アフリカ。

一言では表しきれない多様さがアフリカの魅力でもあります。

## アフリカの世界遺産



凡例

- 文化遺産
- 自然遺産
- 複合遺産
- 赤字は危機遺産

出典:ユネスコHPを基に外務省更新(2025年時点)

### ザンジバル島のストーン・タウン(タンザニア)



タンザニアのザンジバルにあるストーンタウンは、東アフリカの代表的な海岸交易都市であり、2000年に世界遺産に登録されました。アフリカ、アラブ、インド、ヨーロッパの影響を受け形成された旧市街は、独自の都市構造と建築を有しており、美しい石造りの街並みが特徴です。

### ゴレ島(セネガル)



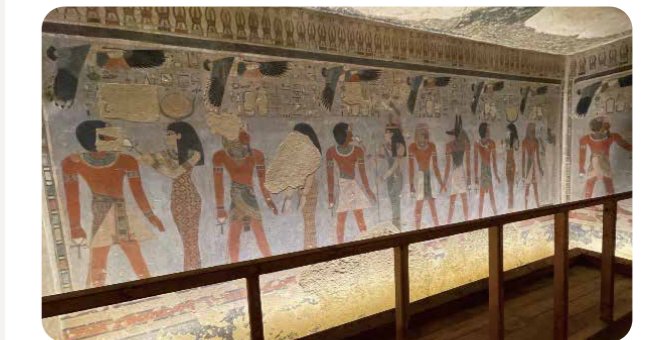
セネガルのゴレ島は1978年にアフリカで最初に登録された世界遺産の一つです。かつての奴隷貿易の拠点であり、現在約1,800人の住民が生活しています。しかし、海流の変化や気候変動による海岸浸食の影響が深刻であったため、日本はゴレ島沿岸の護岸保護支援として波止場の再建等を実施しました。

### カーステンボッシュ国立植物園(南アフリカ)



カーステンボッシュ国立植物園を含めたケープタウン一帯は2004年にケープ植物区系保護地域として世界自然遺産に登録されました。南アフリカは山脈、砂漠と森林、高原と平野など多様な地形と気候を反映した動植物の宝庫であり、中でも、ケープ地方固有の植物の生育や鳥類・動物が息づく同園は、1913年に設立された世界でも最も古い植物園です。

### 古代都市テーベと墓地遺跡(エジプト)



古代エジプト第18王朝のアメンヘテプ3世の王墓は、古代都市テーベと墓地遺跡の一部として、1979年に世界遺産に登録。アメンヘテプ3世の治世下でエジプトは最盛期を迎え、王墓の壁画は第18王朝芸術の典型となっていますが、損傷が激しく、王墓は閉鎖されていました。日本は、王墓の壁画や柱の修復とドキュメンテーション(3D、写真)の他、解説の設置や安全対策等に協力し、2025年に一般公開が開始されました。

## 素顔のアフリカ

- 南スーダン** 全国スポーツ大会 毎年、全国スポーツ大会を首都ジュバで実施。第1回は南スーダンに派遣された自衛隊派遣設備隊が、グラウンドを整地しました。
- モザンビーク** モザンビーク島 インド洋貿易の中継地、キリスト教伝道拠点となった島。1586年には天正遣欧少年使節一行が日本へ帰る途中に立ち寄ったとか。
- モーリシャス** リゾート 「インド洋の貴婦人」と呼ばれ、ヨーロッパで人気の高級リゾート地。日本では、遠洋マグロ漁業の中継・補給基地として知られています。
- モーリタニア** 世界一長い輸送連絡列車 鉄山の町ズエラトから輸出港まで鉄鉱石を運ぶ鉄道の連絡列車は世界一長く、全長2.5kmにも及びます。
- モロッコ** タジン鍋 日本でもブームになったタジン鍋料理。モロッコではジャガイモやニンジン等の野菜とソースを鶏肉や羊肉と一緒に蒸し煮にします。
- リビア** 石油 アフリカ第1位、世界第10位の原油埋蔵量(約484億バレル)を誇る資源大国リビアは石油関連産業が主要産業。
- リベリア** アフリカ最初の共和国 1847年、アフリカ最初の共和国として独立。国名は自由(Liberty)にちなんでいます。
- ルワンダ** ICT コーヒーやマウンテンゴリラで知られるルワンダですが、ICT立国となることを目指し、若手起業家育成にも力を入れています。
- レソト** 民族衣装 レソトの民族衣装は多彩な毛布。地方ではバント・ハットという三角錐状の帽子と毛布を身につけた伝統的な格好で暮らす人もいます。